

浦山「地名の起り」

初めは表裏の「うら」を使っていたが、それが後に山の形が波に似ていることから浦山という字になったと伝えられています。

浦山村、栃屋村、熊野村から浦山村へ

古くから浦山、栃屋集落はありましたが、明暦十三年（一六五七）、現在の熊野地区の開墾が進み、加賀藩から熊野新村として認められ、三か村になりました。それぞれの村には肝煎（村長）や組頭がおかれ、村の運営が行われていました。

明治になり戸長制度が採り入れられ、三か村以外に下立、内山、嘉例沢村を含めた六か村を一区域とし、その所轄所は浦山村におかれました。明治二十二年に新市町村制の施行により、嘉例沢、内山、下立村が分離独立し、栃屋、熊野新、浦山の三か村が集まり浦山村となりました。

浦山寺蔵遺跡（黒部市指定文化財）

昭和五十一年に圃場整備事業に先がけ発掘調査が行われたところ、竪穴住居跡や大量の土器、土製品、石器が出土しました。石器生産に欠かせない蛇紋岩の材料や磨製石斧製作途中のものが大量に見えられ、石器を作る過程が復元できる貴重な遺跡です。縄文時代中期前葉から後期初めにかけた大規模な集落と考えられます。

浦山寺蔵遺跡からの出土品は富山県埋蔵センターに保管されています。



人面模様の土器（部分）



浦山寺蔵遺跡からの出土品

栃屋の守り「金毘羅社」は…

栃屋金毘羅社は、栃屋集落の標高二六〇メートルの山頂にあります。黒部川扇状地や日本海、遠くは能登半島を望む見晴らしの良い場所です。



江戸時代、十二貫野用水の分水路である竜ノ口用水が作られた折に、この工事に用いた石を土台として、金毘羅さまが建られたとの記録が残っています。また、この頃この地に疫病が流行したので、村の助七が、讃岐の金毘羅さまから土をいただいて祈禱したところ、病気がなおったので、その霊験に感謝し、栃屋の金毘羅社の本殿の下にうめたと言いつづけています。このことから江戸時代の天保年間に北陸街道の安全と、航海の安全、村人の無病息災を祈願して建られたと推察されています。毎年十月九日、十日に祭りが行なわれています。

十二貫野用水

十二貫野用水は、十二貫野台地に新田を開拓するため、黒部川支流の尾ノ沼谷から十二貫野台地までの約二十四キロの農業用水です。

天保十年加賀藩の裁定により、椎名道三が中心となって、用水の開削を実施しました。三年かけて天保十二年（一八四一）に作りあげられました。

この用水の特徴は、黒部川本流の水でなく尾ノ沼谷、宇奈月谷、分銅谷など小さな谷水や巻江と呼ばれる谷水を取り入れていることです。現在は改修され、ほとんど暗渠になっています。

第一分水（竜ノ口用水）

十二貫野用水の第一分水は、尾ノ沼谷の水の取入口から約十八・五キロ下流に位置する浦山の水解谷地内にあります。この分水路には、「伏越の理（ふせごしのり）」（導水管）を利用した施設があり、それを、中をくりぬいた石の管を何十本もつなぎ合わせ、谷をこえて向かいの山へ水を上げています。石管は凝灰角礫岩の中を円くくりぬいてあり、この石管は江戸時代において高度な灌漑技術工法を採用した貴重な資料です。導水管の出口はあたかも竜の口から水を吹き出すのに似ているので「竜ノ口用水」ともいわれています。



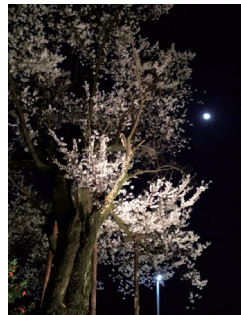
※参考文献：宇奈月町史／築垣光郎著／くろの里めぐり／黒部市教育委員会及び黒部川左岸土地改良区制作の現地案内板／宇奈月町教育委員会編集、宇奈月町の旧北陸街道／浦山小学校教職員編集冊子「ふさと浦山／宇奈月町教育センター編集わたしたちの町宇奈月」

月訪の桜（黒部市指定文化財・富山県桜100選）

月訪の桜は、浦山の鶏野神社境内にあり、七四六年に越中の国司として赴任した大伴家持（七一六～七八五）がこの地を巡視した折に、記念として植えたものと伝えられています。



「鶏の音も聞えぬ里によもすがら月より外に訪う人もなし」



かつては樹高約二十メートル、幹まわりが七～八メートルあったというが、現在は朽ち果てた古株から萌芽が延び、代を継いでいます。桜の種類はエドヒガンです。

地元には大伴家持が浦山まで足を伸ばし、次の歌を詠んだという伝承があります。

月夜の月訪の桜

熊野・栃屋 石塔群（黒部市準指定文化財）

この石塔群は昭和五十一年に圃場整備事業の折に熊野、栃屋地内の水田から出土したものです。板碑、宝篋印塔や五輪塔の各部分などがあり、形や刻み方から、室町時代に作られたと推定されます。また、石仏は地藏三体と聖観音像一体あり、近くの地上にあったものが集められたものです。これらはいずれも江戸時代後期のものです。かつては、この付近には本覚院という寺があったと伝えられ、圃場整備以前には、あちこちに塚状のところがあつたことから、これらの石塔は同寺院あるいは墓地関係の物であると推定されます。

街道の話

北陸道は三日市・杵掛・上野・入膳・横山・泊のルートでしたが、くろべ四十八か瀬を越えるのが大変でした。そのために加賀藩五代藩主前田綱紀公



愛本刳橋（明治11年）

が、新たに道を整備し黒部川の上流に寛文二年（一六六二）に愛本刳橋を架けると浦山は宿場となりました。

これによりこの街道は上街道（上往還、夏街道）といわれ、以後は三日市・浦山・舟見・泊のルートが利用されるようになりました。

参勤交代と浦山の宿

加賀藩主の参勤交代は二千人くらいの数で、多いときは四千人にもなりました。浦山宿では加賀藩主が宿泊する御旅屋（おたや）と、支藩の富山藩・大聖寺藩主が使用する本陣があり、参勤交代の時に藩主と一行が宿泊しました。御旅屋は代々松儀家、本陣は福島家、後に河村家が務めました。そのため、御旅屋、本陣を中心に四九七間（九〇三メートル）の町並が発達しました。



御旅屋跡地

雪山僧鋸さんは…

僧鋸は善巧寺の第十一代住職です。二十一才のとき善巧寺へ入寺し、村の人々に仏の道を説きました。勉学の思い強く京都にのぼり、名僧僧樸の門に入り、名を僧鋸とあらためました。三十一才のときに学林（現、龍谷大学）の講師となり、講義を通して評判が高まりました。宝暦八年（一七五八）ころに善巧寺に学塾、空華廬（くうげろ）を作り、多くの優れた人材を育てました。この空華廬には全国各地から僧鋸の学識と徳を慕って僧侶たちが集まってきました。また、各地で説教して布教に努めました。とくに貧しい家の人々に深い愛情をもって接し、いろいろな悩みを聞きました。

しかし天明三年（一七八三）十月二日、念仏を唱えながら六十一才にしてその偉大な生涯を閉じました。

天保十二年に善巧寺境内に「明教院釋僧鋸慶叟」黒部市指定文化財の石碑が建てられました。



鶏野神社拝殿の天井絵（明治三十年十月奉納）

富山県黒部市

う ら や ま

歴史とロマンの街 浦山



浦山地区マップ

金毘羅社より栃屋～浦山地区を望む

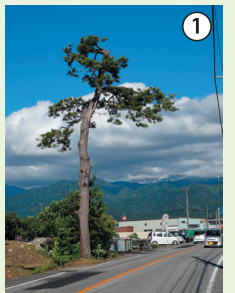
歴史とロマンの街「浦山」／制作・著作・発行：浦山自治振興会（黒部市宇奈月町浦山1012番地、TEL 0765-65-2090）©許可なく写真、文章の複製を禁す／平成28年3月発行＜協賛＞

大高建設㈱・黒部市農業協同組合東部支店・熊野土建㈱・富山管工㈱・㈱トヨックス・新川マリン㈱・紅粉建設有・あいの風・アド美研・石坂外科内科医院・宇奈月浦山郵便局・うなづき食工房・うなづき薬局・鬼原山願蓮寺・大阪屋ショップ株宇奈月店・オカダアドワーク・フボタドレスユニホーム・九〇三・コメリH&G宇奈月店・五叉路宇奈月店・サークルK・SUN黒部・Seeds・新興果樹園・拓新工業・電化の宇奈月・栃屋製作所・栃屋法傳寺・白雪山善巧寺・福多屋菓子舗・藤川自動車・㈱北陸コンピュータービジネス・YASUKOハウス・山田塗装店・東京宇奈月会会長（橋本）

ぶら〜り 浦山 まちめぐり マップ

浦山の町筋を行く

浦山は旧北陸道の上街道（夏街道）で、江戸時代より宿場町として栄えました。街道沿いに若栗から栃屋へ愛本橋を目指して進むと最初の街道松（丁松）があり、右手に栃屋法傳寺が見えて来ます。さらに浦山の町並に入ると右に願蓮寺、左に浦山法傳寺、右に善巧寺と左に鶏野神社と寺院等が集中しています。ここは御旅屋（おたや）、本陣（ほんじん）もあり、江戸時代の浦山宿の中心でした。



ドツタの丁松(街道松)

道幅二間余（約4メートル）の両側に植えられた松を丁松、街道松、往還松、殿様松、などと呼んでいました。ドツタと言われるところ（栃屋から浦山入口あたり）の街道山側に21本、黒部川側に18本あったのが、今は山側に1本、川側に1本となりました。

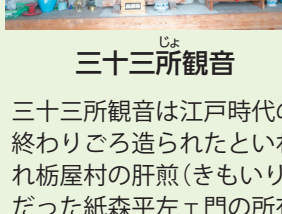


浦山入口のお地蔵さま

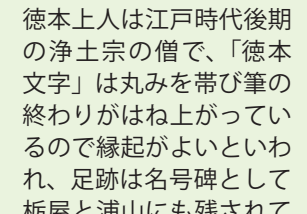


浅乃川・浦瀧の碑

栃屋の辻の庚申塔と石仏



徳本碑(栃屋)

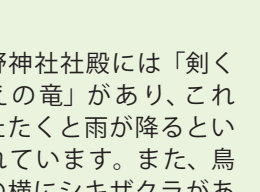
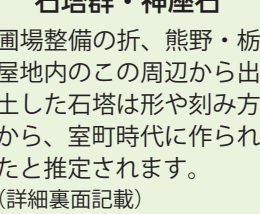


三十三所観音

三十三所観音は江戸時代の終わりとろ造られたといわれ栃屋村の肝煎(きもいり)だった紙森平左衛門の所有であったそうです。

栃屋法傳寺

栃屋、浦山の両法傳寺は今から500年ほど前、室町時代に栄海によって開かれた浄土宗の寺です。



石動彦神社

石塔群・神座石

園場整備の折、熊野・栃屋地内のこの周辺から出土した石塔は形や刻み方から、室町時代に作られたと推定されます。（詳細裏面記載）



熊野神社

黒西第一発電所

黒西第一発電所は、黒部川に設置された水力発電所です。



黒西第一発電所

十二貫野用水

十二貫野用水は、黒部川から取水された用水です。



十二貫野用水

くろべ牧場まきばの風

くろべ牧場まきばの風は、黒部川沿いの風景です。



くろべ牧場まきばの風



月訪の桜



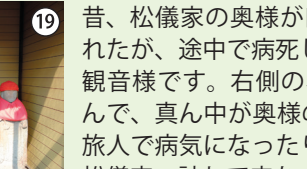
鶏野神社



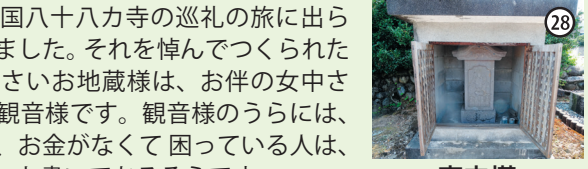
越中・国司大伴家持が領内の巡視の折、熊野権現で一夜をあかすことになりました。鶏も鳴かない寂しい夜でしたが、夜明けに鶏の鳴き声が聞こえたのでこの地を鶏野(とりの)と称しました。その後、鶏野神社(けいやじんじや)となりました。(詳細裏面記載)



旅観音



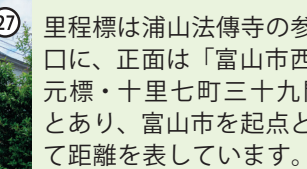
庚申塔(旅観音より山側)



里程標



里程標



徳本碑(浦山法傳寺入口)



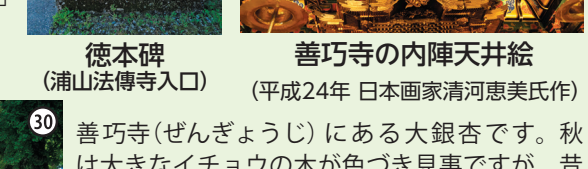
善巧寺の内陣天井絵(平成24年 日本画家清河恵美氏作)



下町方向



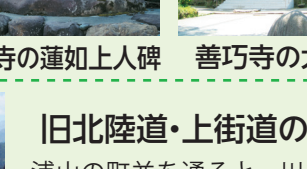
上町方向



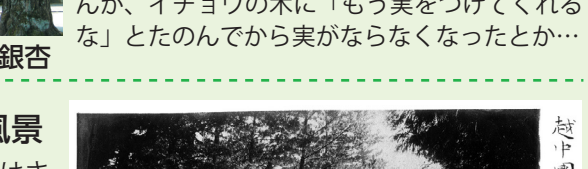
旧北陸道・上街道の風景



下町方向



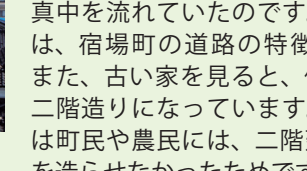
上町方向



旧北陸道・上街道の風景



下町方向



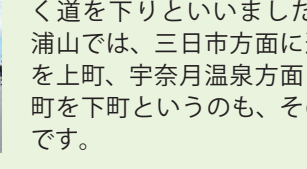
上町方向



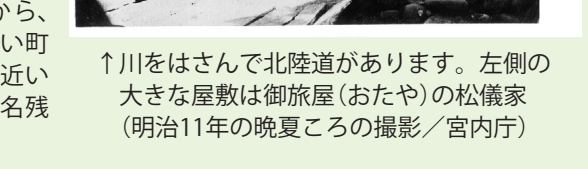
旧北陸道・上街道の風景



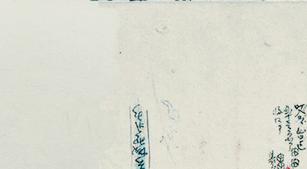
下町方向



上町方向



旧北陸道・上街道の風景



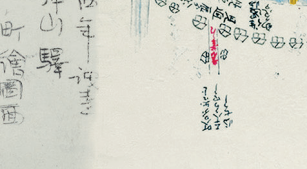
下町方向



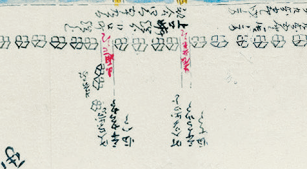
上町方向



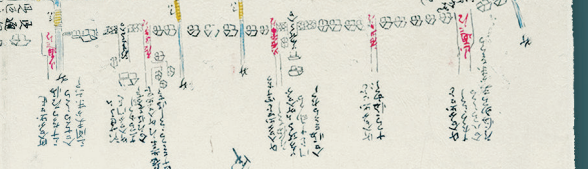
旧北陸道・上街道の風景



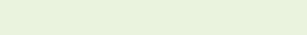
下町方向



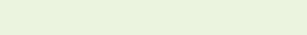
上町方向



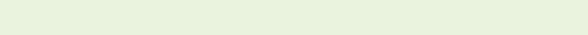
旧北陸道・上街道の風景



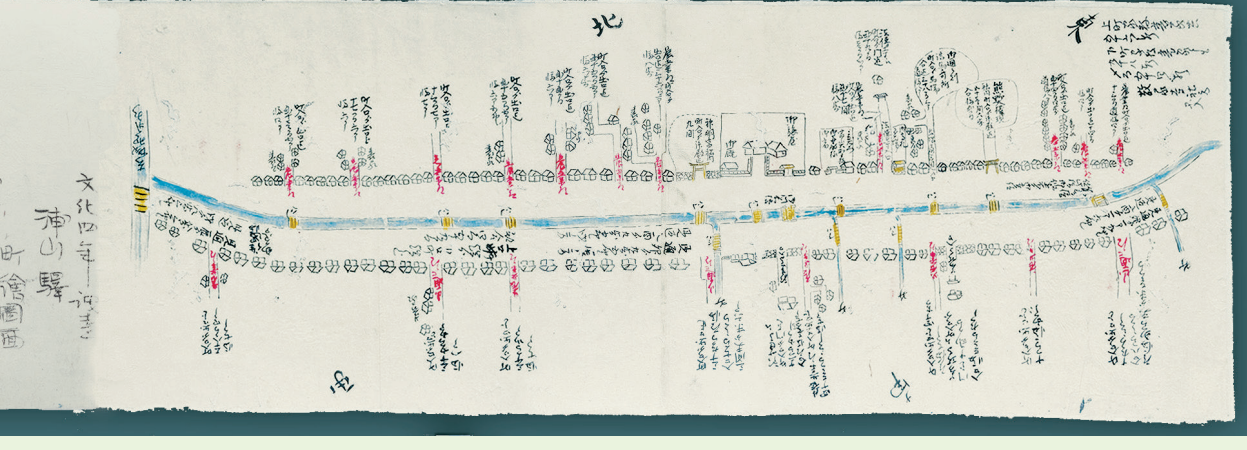
下町方向



上町方向



旧北陸道・上街道の風景



文化4年(1807)加賀藩に提出の浦山宿駅図